

『伊豆の国市の子供たち』 令和7年度全国学力・学習状況調査結果

4月に全国学力・学習状況調査が小6、中3を対象に実施されました。今年度は国語・算数（数学）・理科の調査を実施しました。教科に関する調査結果や、児童・生徒質問紙調査結果から、伊豆の国市の子供たちの良いところや今後の課題についてまとめました。

教科・領域別 平均正答率

小学校6年生 (平均正答率)				中学校3年生 (平均正答率)			
	伊豆の国市	静岡県	全国		伊豆の国市	静岡県	全国
国語	66.0%	66.0%	66.8%	国語	56.0%	56.0%	54.3%
算数	59.0%	57.0%	58.0%	数学	52.0%	51.0%	48.3%
理科	57.0%	55.0%	57.1%	理科	573	527	503

※中学校理科については、IRT スコアとして 500 が基準にした得点を表しています。

【国語】小学校では、文章中の誤った漢字を正しい漢字に直したり、自分の考えをまとめて文章で表したりする力が概ね身につけていますが、文章から必要な情報を読み取り、問題の意図に応じて話の内容を捉える力に課題が見られました。中学校では、相手に伝わるよう表現を工夫する伝達力が身につけていますが、語彙の理解や、根拠をもとに分かりやすく文章を構成する力に課題が見られました。

【算数・数学】小中ともに基礎基本の定着が見られ、今後も継続して目指す知識・能力の育成に力を入れていきたいところですが、深い理解を伴う知識の習得やその活用には課題が見られました。特に小学校では、目的に応じたグラフを選択し、その理由や数を用いて記述する力に課題が見られました。

【理科】小中ともに高い位置での基礎基本の定着が身につけていますが、小学校では、実験方法や結果から得られる考察などを表現する力に課題が見られました。中学校では、考察から必要な実験を選択し、予想される実験結果を記述する力に課題が見られました。



小学校理科の出題から、子供たちに求められている力を見てみましょう。



4 ひろみさんとゆういちさんは、ポットの水をガスコンロの火で温めていると、水の中でモヤモヤしたものが、上へ動いていくように見えることに気づきました。

ビーカーの底のはしを火で温めて、水の温まり方を調べたね。そのときは、水の温度と、水の動きを調べ、水の温められた部分が上へ動き全体が温まることを学習したよ。

ビーカーの底の中心を火で温めたときも、水は同じように温まるのかな。

ゆういちさんたちは、次のような【問題】を調べることにしました。

【問題】 ビーカーの底の中心を温めたとき、水はどのように温まるのだろうか。

【方法】 を解決するために、下のような【方法】で実験をしました。

【方法】

- 500 mL のビーカーに 300 mL のお湯を入れる。
- ①に味噌を少量入れ、よく混ぜてからしばらく置いて冷ます。
- 実験用ガスコンロでビーカーの底の中心を温め、味噌の動きを見る。
- 味噌の動きを確かめられたら、火を消す。

【結果】

温める前のようす

温めたときのようす

ゆういちさんは、【結果】をもとに【問題に対するまとめ】を考えました。

【問題に対するまとめ】

ビーカーの底の中心を温めたとき、水の温められた部分が上に移動して、全体が温まる。

ゆういちさんがまとめてくれて気づいたのだけど、この実験の【結果】だけでは、そのようなまとめはできないと思うな。この実験では、水の（ア）について調べていないのだから。

（1）上のふきだしの（ア）にあてはまることばを書きましょう。

水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察や実験の方法が適切だったかを検討し表現する力が必要です。

回答 答え…（ア）にはいる語句 温度

伊豆の国市の児童・生徒質問紙結果の概要

よい表れ

- ・規則正しい生活を送れている児童生徒が多く見受けられます。
→起床時間や就寝時間、また、朝食摂取が規則正しく習慣化されている様子が見られます。クロス集計の結果を見ても、生活習慣が整っている回答は学力調査の正答率も高い傾向にあります。また、人間関係も良好なものにしていきます。
- ・友達関係に満足している（肯定的な回答9割以上）
→良好な人間関係は、多様な見方や考え方を受け入れることで新たな問いが生まれ、思考や判断の再構成につながり、子供の学びの深まりが高まります。
- ・普段の生活において幸せな気持ちになることがよくある（肯定的な意見9割以上）
→互いに認め合い、安心感を得て生活していることが分かります。家庭で学校で地域で子供たちを見守り、安心で安全な生活環境を継続していきたいです。

課題となる表れ

- ・自分を大切にしていきましょう。
→肯定的な回答率は8割を超えており、全国平均よりも高いですが、昨年度よりも下降しました。自分も他者も大切にすることや何事にも挑戦する気持ちを大切に生活を送りたいです。学校や家庭でも褒め、認め、励ますことで子供に自信をつけていく支援をつづけていきたいです。
- ・読書に親しんだり、新聞を読んだりする機会がある。（全く読まない児童生徒8割）
→読書時間等、活字に触れる時間が定期的にある児童生徒の回答率は高い傾向にあります。SNS やネット等で活字離れがありますが、読書等で、語彙の量は学力にもよい影響を与えます。知識だけではなく、興味関心の幅が広がり、思考力の形成にもつながります。

今、求められている力を育むために…

- ★学校では、「自ら解決したくなるような問いや課題を設定し、主体的に学ぶ授業づくり」に取り組んでいます。新しい学力観に基づき、子供たちが「自分ごと」として主体的に学ぶことができるように、子供の視点を大切にした授業改善を進めていきます。家庭での学習についても、いろいろ試してその子にあった方法を探してみましょう。
- ★ICTを活用して、目標（めあて・ねらいや子どもたちに付けたい資質・能力）を明確にし、どんな力が身についたのかをきちんと振り返る場を位置づけたり、友達との対話から新しい考えを生み出したりすることができるように見通しが持てる授業を目指していきます。家庭では、タブレット等の時間の使いかたを子供と一緒に考えて、子供が納得して使用していくことが大切です。
- ★郷土を大切にし、誇りを持てる人を育てるために、家庭や地域と連携しながら開かれた学校づくりに努め、子供たちが活躍できる場を増やしていきます。
- ★「学習状況調査」の結果から、子供たちの良いところを認める方針がよい結果をもたらしていると考えています。お子さんの話を最後まで聞いたり、意見を尊重したりすることが自己肯定感の向上につながります。ご家庭でも取り組んでみてください。